

奈良県立添上高等学校 中期計画

対象期間	令和4年4月～令和7年3月	
学校教育目標 (育成したい資質・能力)	自立した社会人の育成 社会に役立つ仕事ができる …『誠』 職業観(勤労観)の育成、奉仕の精神の醸成 心身が鍛えられた人材の育成 …『力』 健康観(食育)の育成、諦めない精神力の育成 仲間と共に働くことができる …『愛』 協働の精神(望ましい人間関係の構築)	
本校の使命(スクールミッション)	伝統と新しい息吹を備えた魅力ある学校、「行きたい 行かせたい」と思う学校 (具体像) 1 学習と部活動を両立し、生徒一人一人が自己実現、進路実現ができる学校 2 特技や専門分野を伸ばすことができる学校 3 奈良県の体育学習、スポーツ活動の中核となり、教育力を発信できる活力ある学校	
教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者受入に関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、入学者選抜を経て、以下のような生徒を受け入れます。 添上高校は、明るい笑い声と元気な挨拶が校舎に響き渡り、活気あふれる学校です。 誠…『素直で、真面目な心』、『世のため、他人のために尽くす心』 力…『諦めない心』、『道を究めるために、努力を怠らない心』 愛…『人を敬う心』、『他人の喜びを、自分の喜びとできる心』 様々な活動を通して、生徒一人一人が自分の夢を見つけ、追いかけ、お互いに夢について語り合い、励まし合って、大きな夢を持ち続け、日々成長することができる学校です。共に成長できるみなさんを待っています。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○ 確かな学力の育成 …授業の質を高め、生徒一人一人に応じた指導方法や評価方法を導入する。 ○ けじめある生活の確立…基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識の向上や遵守する姿勢を醸成する。 ○ 進路希望の実現 …進路補習の充実や効果的な模試の活用により、3年間を見据えたキャリア教育を行い、進路実現を図る。 ○ 特色ある学校づくり …部活動の活性化やスポーツを通じた地域貢献、ICTの活用による学力伸長などを進める。 【各科目・コースの特長】 〈普通科〉 :1年次に基礎学力の定着・向上を目指し、2年次以降、文型(幅広く学習し様々な進路に対応)・文理型(進学に重点)を選択。 〈普通科人文探究コース〉:動画による学習と授業での探究的な活動により思考力・判断力・表現力を身に付ける。学外実習で実践的な力を育成。 〈スポーツサイエンス科〉:トップアスリート、体育指導者の育成をめざし、指定クラブで継続的な活動と水泳・スキー・野外実習で実践力を育成。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	未来に「夢と志」をもち、その実現に向けて勇気と剛直な精神で挑む、活力と自信に満ちた生徒を育成する。 〈目指す生徒の具体像〉 1 礼節を重んじ、人間性豊かな「くじけない、諦めない」生徒 2 自ら考え、積極的に仲間と協働することにより、自信と誇りをもつ生徒 3 自己の目標を確立し、達成のための努力を怠らない生徒

〈具体的目標〉	項目	目標値等
1. 心と身体を子どもの成長に合わせて育む	健康教育の充実	健康診断後の受診率や治療率の向上(80%以上)。 保健室来室者数の減少(前年度比マイナス20%)。
	食育の推進	健康な食生活に関するアンケートで、肯定的な回答が90%以上。
	体力の向上と運動習慣の定着	スポーツテストにおいてA判定の生徒SS科で100%、普通科で30%以上を目指す。 体力測定補助や部活動における校種間連携の実施(総数50回以上)。
	主体的・対話的で深い学びの実現	生徒の授業への取り組みに関するアンケートで、肯定的な回答が60%以上の教員が半数以上。 生徒や保護者の授業に関する満足度に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。 評価の観点を意識した課題や発問について、教科間で授業スキルの研修と共有を行う。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力を育む	教職員の資質向上	3年間ですべての教員が研究授業を行い、授業スキルのアップと共有に努める。 70%以上の教員が教育研究所等が主催する研修会等を受講し、スキルアップに努める。
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	奈良県のスポーツ拠点校としての役割を果たす。 各競技団体等と連携した練習会や研修会の開催(年間50回以上)。 科やコースにおける特色ある教育活動に関するアンケートで肯定的な意見が80%以上。 生徒の可能性を上げ、自己肯定感を高めるために部活動加入率を90%以上とする。 スポーツサイエンス科におけるコロナ禍での実習内容や実施方法について検討し、可能な限りの感染対策を講じ、安全・安心な実習を実施する。 人文探究コースにおけるICTを活用した反転授業や英語4技能の育成など、新しい学びのスタイルを提唱する。
	ICTを活用した教育の推進	ICTの活用による授業満足度に関するアンケートで肯定的な回答が70%以上の教員が半数以上。
	学校における働き方改革	各教職員で定時退校日を設定し、週1日以上定時退校を行う。 教職員のストレスチェックにおける[総合健康リスク]の80以下を目指す。
	安全安心な教育環境の整備	毎月の安全点検により、発見された異状箇所の速やかな修復を目指す。 人間関係(いじめ、友達関係)や教室環境に関するアンケートで肯定的な意見が90%以上。
	3. 働く意欲と働く力を育む	キャリア教育・職業教育の推進
社会に役立つ実学教育の推進		進路実現を目指した活動に関するアンケートで肯定的な意見が80%以上。 定期的な模試の活用と振り返りにより学力の向上を目指す。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる		地域との連携・協働推進
	地域社会に貢献する人材の育成	ボランティア活動や清掃活動などに関するアンケートで肯定的な意見が70%以上。
	グローバル人材の育成	海外留学や国際交流を促進するための機会の提供を行う。
	社会教育の推進	社会体育に関する研修会や講習会を年間10回以上開催する。
5. 地域で個性が輝く仕組みをつくる	学校教育における人権教育の推進	新しい「人権教育推進プラン」に沿った人権教育の推進。 いじめや人権に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。
	いじめ・不登校等への対策	「奈良県いじめ防止基本方針」に基づく取組の徹底。 年間2回以上の「いじめアンケート」を行い、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 友人関係や相談できる相手に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。
	特別支援教育の推進	SCを有効活用し、生徒の悩み解消に対応する。 週1回の教育相談部会、月1回の教育相談委員会により支援や配慮を必要とする生徒の情報を共有し、個別の支援計画や個別の指導計画を作成する。
	多文化共生教育の推進	多文化への理解を促すHRを行う。